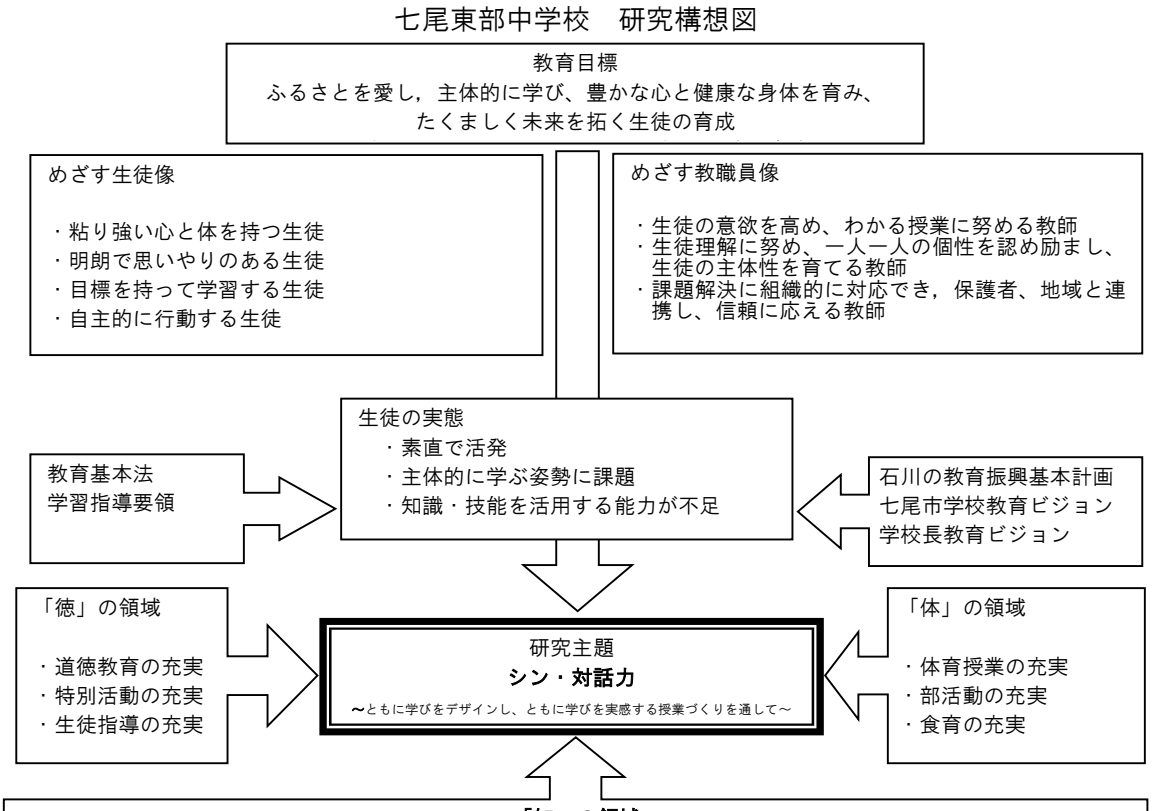
令和８年度　学校研究全体構想図



○研究仮説

すべての教科において、教科の枠を越え、単元の中にアクティブラーニングの視点および適用題を位置づけた授業を計画的に実施すれば、生徒の活用力ならびに主体性は向上するであろう。

また、単元のゴールを生徒と教師が共通理解し、学びを活用したり、振り返る時間を設定することで生徒の活用力ならびに主体性は向上するであろう。

○PDCA 計画

・学力向上ロードマップに基づき，年間３回の研究の方向性を含めた見直しを行い，計画（P）・実行（D）・検証（C）・改善（A）を行う。
・校内研修会を通じ，研究実践の成果を共有し，共通実践に役立てる。

○具体的な実践内容　研究の重点

（１）授業づくり

２条：自ら課題を発見し，主体的・協働的に課題を解決する力の育成

①MJ カードを利用することで、単元のゴールを教師と生徒が共通理解する。
②活用力向上スケジュールを作成し、計画的に適用題を単元に取り入れる。
③主体的に学ぶ工夫を４種類に分け、それらの工夫を取り入れた授業づくりを行う。
④その他

（２）基盤づくり

８条：よりよい学習習慣・生活習慣の定着

①七尾東部スタンダードを利用した授業規律の徹底
②家庭学習の充実
③学習強化週間の設定
④ICT の活用
⑤Tobu’s Talk による人間関係づくり
⑥朝学習の実施

（３）指導改善を進める体制づくり

１１条：現状把握に基づき，取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立

①計画的な要請訪問と校内研修会の実施
②学力向上ロードマップの活用